

葛西小学校・中学校～学力向上に向けた取組～

★小・中学校の教員合同で学力調査の分析を行っています！

令和元年度児童・生徒の学力向上を図るための調査「課題分析シート」

校種・学年 中学校 2年 教科 数学

問題番号	評価の観点	課題（正答できなかった要因）	関連する現行学習指導要領の内容（課題を改善するために重点的な指導が必要な内容）																	
			小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3									
□1 (4)	数学的な見 方や考え方	・基準に基づき、正負の数を使って平均を求め ることについて十分に理解していないことによ るものと考えられる。																		
□2 (3)	数学的な技 能	・移項や、両辺に同じ数をかけたりわたりす ることを誤ったことによるものと考えられる。																		
□3 (1)②	数学的な見 方や考え方	・特定の値のみ取り立てられていること、文字を 使って一般的に表現することの違いについて、 理解することができていないことによるものと 考えられる。 ・問題文の意味が読み取れていない。																		
□3 (2)	数学的な見 方や考え方	・式の考え方を表す図が分からず、アなどの個 のまとまりが3つあるということを探えられな かったものを選択したものと考えられる。																		
□4 (1)	数学的な技 能	・数量の関係を見いだせなかったことによるも のと考えられる。																		
□6 (1)	数学的な技 能	・図形の対称性や図形を決定する要素について 理解できていないことによるものと考えられ る。 ・問題文の手順を読み取れていない。																		
□7 (1)	数学的な技 能	・円錐の体積を求める方法を理解できていない ことによるものと考えられる。																		
課題を解決するための具体的な取組（アイデア）			○問題文が読解できていないため解けていないように感じる。問題を時間をかけて考えさせ、考え方を共有させる時間をつくる（問題を解くヒントを出すタイミングを再考する）。 ○小学校でよく行われている「わかるころまで戻り、わからないころほどこなかをはっきりさせる」ようにする。 ○小学校では、考える授業を中心に行っているが、中学生になると学習内容や授業時数の関係から授業のスピードが上がる。中学校に入る前の小学校時に少しずつならしていく。 ○Bの資料の活用分野の習熟が良いことから、学習した時期が近い内容の習熟度が高い。くり返し学習することにより、もう少し定着できると考えられる。 ○問題の読解などの面から教科を横断した取組が必要。																	

東京都の学校では、毎年7月に小学校5年生と中学校2年生を対象に、学力調査（「児童・生徒の学力向上を図るための調査」）を実施しています。

この結果について、本校では、併設型小・中学校の特色を生かし、小学校と中学校の教員が合同で分析を行っています。

それぞれの小問について、都全体と本校の結果とを比較して、特に正答率（正答の割合）が低かった問題について、その要因と重点的に指導が必要な学習内容を考えます。

例えば、中学校2年生の数学の出題内容が中学校1年生で学習した単位だとします。その単位を理解するためには、小学校のどの学年のどんな内容が関係しているのかについて検討し、左のような表にまとめます。

小・中学校9年間の系統性を明らかにすることで、どの学年を受け持った場合でも、教員が何を重点的に指導すればよいか分かります。

このように、本校では、各教員が小・中のつながりを意識して各教科の指導を行い、子どもたちの学力向上を図っています。